



安心できる雰囲気づくりを大事にする毛内さん

輝いています

ひと

再現美容師

もうない ひでかつ
毛内 英克 さん

がん患者の不安を髪から変える

がん治療による副作用で、髪の毛を失った人に、医療用ウィッグで元の髪型をよみがえらせる再現美容師。県内で唯一その活動を行っているのが毛内英克さん(49歳・北町4丁目)です。北大宮駅前で美容室を経営する傍ら、全国で僅か50人ほどの再現美容師のうちの一人として、がん患者と向き合っています。

市内で美容室を経営したいとこの影響で美容師の道を志した毛内さん。都内の店舗などで修行をし、今の店を開いたのが21年前のことです。その後、いとこと美容師の師匠を続けて肺がんで亡くしました。「恩人たちになにもしてあげられなかった」と、思い

悩む日々。そんなときに出会ったのが再現美容でがん患者を支援するNPO法人でした。「美容師の自分にできることを」と、訓練を経て、平成24年から活動を始めましたが、当初は知名度が低く、病院に医療用ウィッグの案内を置いてもらうことすら困難でした。それでも、「がん患者の闘病の一助になりたい」と、粘り強く活動を続けた毛内さん。徐々に相談者が増え、これまでに300人以上を支援してきました。人目を気にしてあまり外に出られなかった人が、毛内さんが調整した伸縮性や自然な艶、肌触りを兼ね備えたウィッグをセットし、鏡に映る自分の姿を見たとき、ほっとして涙を流すことも。

そんな毛内さんがいちばんたいせつにしているのが心のケアです。会話を重ねるなかで距離を縮めるとともに、治療後に伸びる髪に合わせたウィッグのサイズ調節やメンテナンスなどのきめ細やかなサポートも行います。「ウィッグを外した瞬間のすてきな笑顔を見るまで寄り添います」と、優しく語る毛内さん。これからも髪を通して、がん患者の不安で沈んだ心に希望の光を照らし続けていきます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No. 4 —



現在の茨城県古河市で生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)



暁斎筆
「暁斎楽画第五号
不動明王開化」

明治7年に版元・沢村屋より出版された錦絵「暁斎楽画」シリーズの一つ。明治維新を受けて、不動明王が読むのは最新刊の『新聞雑誌』、手前では従者の制多迦童子がやはり維新後にはやりだした牛鍋を作っています。肉食を禁止する仏教の守護者・不動明王が牛鍋を食べるとは、正に文明開化を茶化しているのでしょうか。なお、本図の錦絵の大きさ(約36・6センチ×24・3センチ)を「大判」といいます。企画展では、錦絵の大きさの比較展示や現存する版木の展示も見ものです。

河鍋暁斎記念美術館

「暁斎・暁翠の錦絵 一版下絵から版画まで」展
同時開催「堀田操・堀田浅子 二つの旅」展
期間＝9月2日(金)～10月25日(火)

開館＝午前10時～午後4時 休館＝木曜日
毎月26日～末日 ところ＝南町4-36-4
入館料＝一般540円 中学生～大学生430円
小学生以下210円 詳細＝同館(☎441-9780)
(20人以上の団体は要予約)



展示会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

本作品は現在の展示会で御覧いただけます